

貯法：室温保存

有効期間：3年

承認番号 16100AMZ01308

販売開始 1979年1月

皮膚刺激剤

日本薬局方 トウガラシチンキ

トウガラシチンキ「ニッコー」

CAPSICUM TINCTURE 「NIKKO」

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

び爛・創傷皮膚及び粘膜には使用しないこと。[刺激作用を有する]

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	100mL中 日局トウガラシ 10g (総カプサイシン((E)-カプサイシン及びジヒドロカプサイシン) 0.010w/v%以上)
添加剤	エタノール

3.2 製剤の性状

性状	本品は黄赤色の液である。
----	--------------

4. 効能又は効果

皮膚刺激剤として下記に用いる。

筋肉痛、凍瘡、凍傷（第1度）、育毛

6. 用法及び用量

筋肉痛、凍瘡、凍傷（第1度）には、トウガラシチンキとして、通常、10～40%を添加した液剤、軟膏剤、硬膏剤又はパップ剤を1日1～数回局所に塗布する。

育毛には、トウガラシチンキとして、通常、1～4%を添加した液剤を1日1～数回局所に塗擦する。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
皮膚 ^注	刺激感、疼痛等

注) これらの症状が強くあらわれた場合には、濃度を下げるなど適切な処置を行うこと。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

- 14.1.1 原液のまま使用しないこと。
- 14.1.2 入浴直後に使用しないよう注意させること。
- 14.1.3 眼又は眼の周囲に使用しないこと。
- 14.1.4 引火性があり、爆発の危険性もあるため、火気には十分注意すること。[20. 参照]

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

capsaicinは局所適用又は皮下投与などで侵害受容器及び温覚受容器を選択的に遮断する感覚ニューロン遮断薬である。capsaicinは脊髄からP物質、ソマトスタチンなどを放出させ、化学物質による痛覚、温覚の閾値を高めるが、皮膚のP物質含量及び血漿溢出も減少させる¹⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

性状（トウガラシ）：トウガラシ *Capsicum annuum* Linné (*Solanaceae*)の果実である。

20. 取扱い上の注意

火気を避けて保存すること。[14.1.4 参照]

22. 包装

500mL（ガラス容器）

23. 主要文献


- 1) 第十八改正日本薬局方解説書、D-712-716、廣川書店、2021

24. 文献請求先及び問い合わせ先

日興製薬販売株式会社 製品情報窓口
〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町3番地
電話 (03) 3254-1831

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

 日興製薬株式会社
岐阜県羽島市江吉良町1593

26.2 発売元

日興製薬販売株式会社
東京都千代田区神田紺屋町32番地